

令和元年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にした指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>【学校から】「一人一人の児童生徒の尊重」については、「そう思う」と回答している児童が64%と突出していることは、評価に値する。また、教職員の「そう思う」も38%で、昨年度より16%増加した。ただ、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」という保護者、児童の割合が若干増加している。今後も保護者との連携をていねいに図りながら、一人一人に応じた指導、支援に努めていきたい。「友達への思いやり」では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が、保護者、児童、教職員ともに90%を越えている。ただ、教職員は、保護者、児童に比べてプラス面の評価が低く、学校生活での友達との関わりの中で多様な姿を見せる児童について、さらに改善していく課題があることを感じていることがうかがえる。「道徳・心の教育の充実」については、概ね良好な結果であったが、「そう思う」の割合が高まるように日々の教育活動を充実させていきたい。</p>		

### ②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】「意欲的な学習態度」については、保護者、児童、教職員ともに、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が90%を越えている。「授業力向上」においては、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の保護者が96%で、直近3年間の中で最も高い数値となった。ただ、「意欲的な学習態度」「授業力向上」ともに、児童の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が若干下がっている。その原因を見極めながら、さらに児童理解を徹底に据えた実践を充実させていきたい。また、「ICT活用」に関しては、保護者、児童、教職員ともに95%を超えた。情報機器の環境整備とともに、教職員間でその活用法の共有が図られ、授業の中で効果的に活用されていることの表れととらえられる。確かな学力を育む教育の推進に関しては、学校での授業改善の取り組みが、保護者にも伝わっていることがうかがえる。</p>		

### ③健やかな体を育む教育の推進

#### 7 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

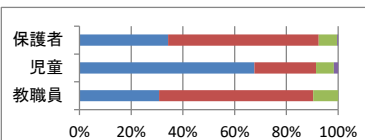
【学校から】教職員は、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が69%で、昨年度に比べ6%増加した。ただ、依然として、保護者、児童との回答結果の違いが際立っている。子どもの食生活、基本的な生活習慣、情報社会の中での生活等に関して、教職員の方が保護者、児童より強い危機意識を持っていることがわかる。今後も、保護者とともに考えていく場を計画的に設けていく必要がある。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実	②特別支援教育の推進	
8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】「児童生徒理解」において「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が、保護者、児童、教職員ともに90%を越えている。中でも、児童の「そう思う」が56%であることは、特筆すべきことである。「いじめや問題への対応」では、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の教職員が100%であった。いじめ根絶に向けた教職員の強い意識が垣間見える。また、保護者も「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が2%増加し89%であった。児童へのていねいな関わり・聞き取り、保護者への情報提供、家庭との連携など学校の取り組みへの理解が少しずつ広がってきていることが感じられる。「特別支援教育の推進」についても、保護者、教職員ともに、高いプラス評価となった。ただ、「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」という保護者が40人～50人程いることを謙虚に受けとめ、さらに、保護者と連携したていねいな支援を心がけていきたい。</p>		

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

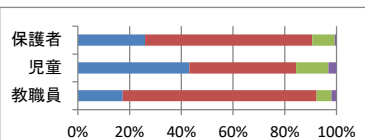


保護者、児童、教職員ともに、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が90%をこえたが、保護者、児童、教職員すべてが若干数値を下げている。依然として、教職員と児童の「そう思う」の結果に大きな開きが見られる。校内でのけがの件数が多い状態も続いているため、実生活につながる指導のあり方を探っていく必要がある。

## ②最適な学習環境の整備

### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

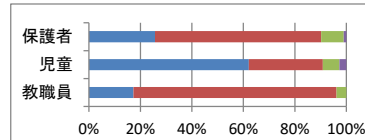


保護者、児童の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」は、ほぼ横ばいであったが、教職員は14%上昇し92%であった。安全点検を踏まえた事後処置が適切に行われている結果だととらえられる。保護者、児童にも環境整備が実感されるように、ていねいな取り組みを継続していくとともに改善の周知を図っていく必要がある。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 13 教育方針・目標の理解

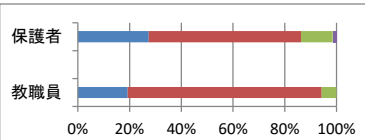
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



【学校から】「教育方針・目標の理解」については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が保護者、児童、教職員ともに90%を超えた。保護者は、2%増加し初めて90%に達した。「家庭や地域との連携協力」では、保護者に変化は見られなかったが、教職員は9%増加し94%であった。ただ、教職員は、両項目ともに、「そう思う」が20パーセントに届いていない。新学習指導要領の柱である「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、教職員で知恵を出し合いながら、さらなる保護者・地域との連携のあり方を探っていくなければならない。地域人材、施設・環境の把握を細かく行き、教育課程に組み込んでいくように努めたい。

### 14 家庭や地域との連携協力

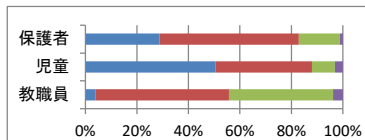
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



## ④本校の教育

### 15 3つの「あ」の推進

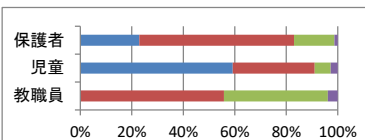
子どもは、自分から進んで明るいあいさつをしていると思いますか。



【学校から】今回の調査でも、「あいさつ」に関する項目は、児童・保護者と教職員の意識の差に大きな開きがあった。ただ、教職員の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が13%上昇し56%になったことは、少しずつ学校・学級での指導が児童に浸透してきていることの表れであると考えられる。今後も、あいさつの大切さ・意義について、場をとらえた効果的な指導によって考えさせていくことを継続させていかなければならない。「感謝の気持ち」に関しても、児童・保護者と教職員に大きな差が見られた。感謝の気持ちを持った行動の具体的な姿を関係者で共有し、組織的に取り組んでいく必要がある。「働き方改革」については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」が16%上昇し60%という結果であった。少しずつ勤務時間縮減への意識が高まっていることがうかがえる。さらに、アイデアを出し合いながら、働き方改革を進めていかなければならない。

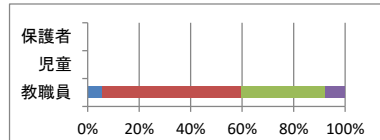
### 16 3つの「あ」の推進

子どもは、感謝の気持ちを持って生活していると思いますか。



### 17 働き方改革

勤務時間外の在校時間を縮減できるように、働き方改革を意識して職務を進めていますか。



## 来年度の具体的な取り組みについて

- 児童一人一人を大切に指導について、教職員の意識の高まりが見られた。今後も、教職員と児童、また児童相互の心通わす温かいふれあいを通して、豊かな心の育成を目指していく。道徳の教科化における授業改善の柱である「考える道徳」「議論する道徳」へのさらなる転換を図れるように、校内研修等で研究を深めていくようにする。
- 学力の向上を目指した日々の授業改善への取り組みが保護者にも理解されてきていることがうかがえる。一方、学習意欲等に関する児童の意識が若干下降気味であることは気になることである。その原因をていねいに見極めながら、研究指定校としての実践を通して蓄積してきたことをさらに発展させていくことができるように取り組みを継続させていかなければならない。
- 児童の心身の健康づくり、あいさつを含めた生活習慣等に課題が見られる。生活指導では、教師側の効果的な働きかけを行うとともに、児童会活動ともタイアップし、児童の主体的で創意的な発想を生かしながら、児童が自分たちの生活を自分たちの手で高めていけるような力を育てていく。あいさつについては、少しずつ好ましい方向へ向かっていることもうかがえる。保護者とのさらなる連携を図りながら、生活習慣の確立、情報モラル等に関して合同で学べるような場を創出していく。

## 学校関係者評価

- 授業を参観し、きめ細かなていねいな指導がなされているように感じた。児童がのびのびと授業を受けているようで、明るい笑顔がたくさん見られた。
- 昨年度の学力検査で国語科が少し低調だったと聞いている。外国語の学習の大切さが盛んに叫ばれているが、言葉の乱れ、漢字の筆順等になるところも多いので、国語教育にもしっかり取り組んでほしい。そのためにも、今後も効果的な読書指導を進めてほしい。
- 校庭の中庭等に花がきれいに並べられており、学校に潤いが生まれている。栽培活動（土いじり）は、児童の育ちにとってとても重要であるように感じる。園の計画的な活用を今後もお願いしたい。
- 総合ジムは、児童の大好きな遊具であり、撤去は残念である。遊びを通して体力が高まっていくので、今後も外遊びを推奨してほしい。
- 地域との連携については、積極的に公民館を活用してほしい。地域の学習素材やゲストティーチャー等に関しても、情報を提供してくれることが多い。
- 知徳体バランスよく育てることが小学校の使命だと思うので、今後もさらなる教育活動の充実を目指してほしい。